

令和4年第1回江別市総合教育会議

1 日時 令和4年7月25日(月)午後1時30分～午後3時10分

2 場所 江別市セラミックアートセンター 2階研修室

3 出席者

(構成員) 江別市長 三好 昇
江別市教育委員会
教育長 黒川 淳司
委員 支部 英孝
委員 林 大輔
委員 須田 壽美江
委員 麓 美絵

(学校教育支援室)

教育部学校教育支援室長 中島 桂一
教育部学校教育支援室学校教育課長 川口 直也
教育部学校教育支援室学校教育課参事 浅木 義博
教育部学校教育支援室教育支援課長 清水 さおり
教育部学校教育支援室教育支援課主査 伊藤 達倫

(スポーツ課)

教育部スポーツ課参事 稲垣 恭典

(郷土資料館)

教育部郷土資料館参事 兼平 一志

(事務局)

教育部長 伊藤 忠信
教育部次長 佐藤 学
教育部総務課長 山崎 浩克
教育部総務課総務係長 河崎 真大
教育部総務課総務係主査 工藤 雅和

4 議題

- (1) 令和4年度教育施策について
- (2) いじめ・不登校について
- (3) セラミックアートセンターのこれまでの総括と今後の利活用について

会 議 録

伊藤教育部長	<p>定刻になりましたので、ただいまから、令和4年第1回江別市総合教育会議を開会いたします。</p> <p>会議に先立ちまして、会議の主宰者であります、市長からご挨拶をお願いいたします。</p>
三好市長	<p>それでは、私から一言ご挨拶を申し上げたいと思います。</p> <p>令和4年6月30日、教育委員会は新しい体制でのスタートとなりました。先の第2回市議会定例会におきまして、黒川教育長が任命同意をいただき再任されました。また麓委員も同日であります6月30日付けで任命同意をいただき、新しく教育委員として就任されました。退任されました橋本委員は、本日こちらにいらっしやいせんけれども、2期に渡りまして長年、江別市の教育行政のためにご尽力いただき、心より御礼申し上げます。</p> <p>現在の教育行政は、デジタル化によるGIGAスクール構想が進み、大きく変わりつつあって、激動といっても私は過言ではないと思っております。</p> <p>また、江別市は現在、それほど大きく人数が減っているというほどではございませんが、全国的にも全道的にも、少子化によりまして、大きく子供たちの数が減ってきております。教育の仕方が変わるという状況ではないかと思っております。</p> <p>さらには、先生方の働き方改革が進んでまいりまして、部活の問題ですとか、いろんなところに波及しております。この先生方の働き方改革によって、学校の運営も少しずつ変化していくのではないかなと思っております。その対応もこれから進めていかなければならないと思っております。</p> <p>そのためには、この総合教育会議というのは、極めて重要な会議であり、緊張感を持って、その思いの下に対応していきたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>本日は会場がセラミックアートセンターでございます。これまでの公室での会議ではなく、道立野幌総合運動公園近くの広々とした敷地内での開催ということで、気分を一新してご議論いただければと思いますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、本日は議題として3件用意しております。</p> <p>その議題に入る前に、新型コロナウイルス関連の話も少し触れたいと思います。</p> <p>全国では、7月23日ですが、20万人を超える感染者が発表されて、道内におきましても4,000人を超える日が3日続いております。</p> <p>江別市におきましても、大幅な感染拡大が続いております。まだまだ、感染状況のピークに達していないというお話もありますので、これからも感染拡大が続くものと考えております。</p> <p>しかし、国の考えでは、社会経済を動かしながら、感染対策を進めていくということが基本的な考えでございます。新型コロナウイルスに感染した方の重症化も非常に少ないと言われております。日常の感染対策を徹底していかなければならないと思っておりますので、これからも皆様方のご意見をいただきながら進めていく必要があると思っております。</p> <p>そこで、直近の小中学校の感染状況について資料が用意されておりますので、事務局から報告をお願いしたいと思います。</p>
川口学校教育課長	<p>私から、市立小中学校における新型コロナウイルス感染症への対応状況について、ご説明いたします。資料1をご覧ください。</p> <p>1の学校における感染症対策につきましては、資料に記載の様々な対策を講じながら、教育活動の継続に努めており、この中でも重点的に取り組んでいることとして、児童生徒や同居家族の体調不良の場合には、登校を控えてもらうなど、水際対策を徹底してきたほか、北海道情報大学の協力により教職員のワクチン接種を行うなどの対策を行ってきております。その結果、資料の記載はございませんが、今年度の学校行事は、運動会や修学旅行、中体連などは、ほぼ予定通りに実施出来ており、また、2年間中止していた水泳学習に関しても、3年振りに実施しております。</p> <p>また、7月に入ってから市内でも感染者が増加している傾向にありますが、7月22日から始まった夏季休業中におきましても、各家庭で感染を防ぐ行動をとってもらうため、北海道が道民向けに作成した感染拡大防止に向けた行動やワクチン接種が記載されたり</p>

	<p>リーフレットを各家庭へ配布するよう学校へ依頼し注意喚起をしたほか、部活動に関しても、競技等に応じた感染対策を徹底しているところです。</p> <p>次に、2の月別学校休業数ですが、学級閉鎖等の休業措置について、月別に延べ件数を資料にまとめております。なお、4月以降、大幅に件数が減少していることにつきましては、令和4年3月25日付けの道教委の通知により休業措置の考え方が変更となっており、以前は感染者が1名発生した段階で休業措置を講じていたものが、同一の学級で複数の感染者が発生した場合などに、休業措置を講ずることになったため、そのことが件数に大きく影響しているものと考えております。</p> <p>資料の説明は以上です。</p>
三好市長	<p>ただいま事務局から報告がありましたが、委員の皆様からご意見、ご質問等がございましたら発言をお願いしたいと思います。</p>
須田委員	<p>7月のちょうど夏休み前ぐらいから子供たちの感染者が多く出たとのことですが、7月の感染による休業措置の状況を教えていただきたいと思います。</p>
川口学校教育課長	<p>7月の学級閉鎖等の休業措置の状況ですけれども、すべて小学校で、学年閉鎖を行った学校が2校、学級閉鎖を行った学校が2校の合計4校で休業措置を講じております。</p>
三好市長	<p>そのほかございませんか。 よろしいでしょうか。(了)</p> <p>基本的には、やはり夏休み中でありますので、家庭で感染拡大を防止していただくことが重要であると考えます。</p> <p>ワクチン接種でございますけれども、少しずつ接種率は増えてきておりまして、江別市の子供たちの場合でしたら、2回目や3回目の接種というところまで今は行っておりますけれども、3回の接種になると急にぐっと数字が落ちております。</p> <p>ちなみに12歳から15歳までのワクチン接種でございますが、7月22日現在、2回目までで54.8%、3回目まで接種した人が13.3%ですから、3回目まで実施した子供たちが非常に少ないとのことであります。ワクチン接種を担当している者に話を聞きますと、今回の感染拡大で接種する方が少しずつ増えてきているとのことでした。</p> <p>いずれにしても、ワクチン接種そのものは子供たちに強制はできませんので、自主的に接種していただくことになろうかと思っております。</p> <p>特に学校では、通常に対応という形での運動会や修学旅行、水泳学習の再開など取組が平常化で進んできております。これまで以上に手洗い、手指消毒、換気、正しいマスクの着用など徹底していただくようお願い申し上げたいと思います。</p> <p>これにて本件については、終結させていただきます。</p> <p>それでは、本題であります議事を進めてまいります。</p> <p>冒頭申し上げましたけれども、本日の議題は3件ございまして、一つ目が令和4年度教育施策について、二つ目がいじめ・不登校について、三つ目でございますが、セラミックアートセンターのこれまでの総括と今後の利活用についての3件でございます。</p> <p>それでは、次第に基づき、議題1の令和4年度教育施策についてを議題といたします。資料も用意されておりますので、事務局から説明をお願いいたします。</p>
山崎総務課長	<p>それでは、(1)令和4年度教育施策について、ご説明いたします。</p> <p>お手元の資料2子どもが輝くえべつの小中学校をご覧願います。このリーフレットには、主な教育施策が掲載されておりますが、この中からいくつかピックアップして説明させていただきます。</p> <p>始めに、1ページ目の上段令和5年度に小中一貫教育を導入であります。令和3年1月に策定した江別市小中一貫教育基本方針に基づき、江別市の教育をより一層充実させるため、令和5年度に市内全校で小中一貫教育を導入します。現在、全校導入に向け、中学校区単位で中学卒業時点での目指す子供像の共有、小中の基本的な指導方法などの共通化、小中のつながりを意識した授業、小学6年生の中学校体験登校を実施するなど、準備を進めております。</p>

	<p>なお、本件に関しましては、10月から11月開催予定の当会議において、市内の推進状況などについてご報告のうえ、皆様にご議論いただくことを予定しております。</p> <p>次に、下段ICT機器を活用したわかりやすい授業であります。本件に関しましては、昨年度も第1回、第2回の当会議で進捗状況などをご報告しておりましたが、今年度は、学習者用デジタル教科書活用に係る国の実証事業の拡大を受け、全小中学校で実証事業に参加し、児童生徒のデジタル教科書の活用を進めているところです。また、10月には、小学校2学年分のタブレット端末を整備し、これにより児童生徒一人1台の整備が完了する予定であります。</p> <p>リーフレットの最後のページをご覧ください。中段の江別の魅力「食」と「自然」を満喫ではありますが、今年度からの新規事業として、小学4年生から中学3年生までを対象に、江北地区にある都市と農村の交流センターえみくるにおいて、自然体験や地場産品を活用した食育、異年齢交流といった体験型学習を行うことで、青少年教育を進めます。</p> <p>説明は以上です。</p>
三好市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>令和4年度の教育施策についての説明がございました。</p> <p>今年度拡大している事業などについて説明を受けましたが、もう既にスタートしている事業でございます。皆様からご意見等がございましたら、ご発言お願いしたいと思います。いかがでしょうか。</p>
黒川教育長	<p>私から、小中一貫教育の件とICT教育についてのところを少しだけ補足させていただきたいと思っております。</p> <p>小中一貫教育については、リーフレットにございますように、令和5年度からの導入としているところであります。しかし、実はもう既に始まっているというか、各学校が精力的に取り組んでくれていることに対して、私は、本日の午前中に行った教職員向けの研修会で各学校にお礼を申し上げたところです。</p> <p>といいますのは、それぞれの中学校区で、先生方のアイデアを生かした取組を既に実施し、その手応えを感じているという声をいくつも聞いているからであります。</p> <p>具体的に申し上げますと、6年生が中学校への体験登校を既にほとんどの学校で終わっているところです。そのうち、複数の小学校から1つの中学校に進学する学校が行った体験登校でグループ活動を行う際に、小学校の子供たちがいずれ中学校に上がったときに同じ仲間になる子供たちでグループを作り、その子供たちがお互いに自己紹介とかを行ったり、グループエンカウンターを行ったりする中で、初め緊張気味だったのがあっという間に打ちとけることができ、すごくいい経験ができたと思っております。また、それを引率した小学校の先生が、この取組はすばらしいので、ぜひ次も行おうという声がございました。</p> <p>また、別の学校では、小学生と中学生の合同体力テストを実施した際、中学生が小学生へ張り切って見本を見せたり、小学生が中学生の技に驚いて歓声を上げたり、中学生が親切にやり方を教えるなど、児童生徒そして教員とともに、合同で体力テストを行ってよかったねという声がたくさん届いております。</p> <p>そのほかには、地域の合同クリーン作戦を小学生と中学生のほか、地域の方も一緒にやった事例など、先生方がアイデアを生かして、どういことをやってみたらよいかということ工夫しながら取り組み、手応えを大きく感じているところであります。</p> <p>さらには、中学校区の小学校、中学校の先生が合同で集まって会議を行い、顔合わせをしながら、これからの取組や内容を相談しあうということ、既に複数回やっている地区もあり、このような取組を少しずつ進めていくことで江別市の小中一貫教育は、見通しが持て、成果を上げるのではないかと手応えを感じているという声が届いており、うれしく思っているところであります。次回の総合教育会議でまたその進捗状況についてお知らせをしたいと考えております。</p> <p>次に、ICT教育についてであります。子供たち、そして先生方の活用能力をしっかりと高めていきたいということから、令和3年度に江別の教育情報化ガイドラインというものを江別の先生方の力を借りて作成をしたところです。</p> <p>ここでは、得意な子がどんどん進み、苦手な子は何もできないということにならないように目指す姿を定めて、どの学校も同じような力をつけられるように努力しようと設定し</p>

	<p>たものであります。これに基づいて各学校は取組を進めていますが、先生方の力も児童生徒の力もみるみる伸びているというのが実感でございます。</p> <p>この間、総務文教常任委員の皆様もご覧になって驚いたと聞いておりますが、例えば、タイピング能力についても、何年生は何分でこのぐらいというような目標を定め、どの学校の子供たちも目標に届くようにしようという指導を行っているところです。</p> <p>デジタル教科書も、教育委員会で購入している教員用と国から試験的にいただいている児童生徒用の活用が、盛んに進んでいるところです。今申し上げましたように、授業での活用が一つありますが、もう一つは、家に持ち帰ってからの活用があります。道教委では、これまで年に6回のチャレンジテストを学校へ配信して、学校がそのデータを全学年分、印刷し配付して演習問題をやり、それを先生方が採点というふうに、ものすごいエネルギーを費やしてやってきております。しかしこれをC B Tと申しまして、コンピューターベースドテストングと言いますが、紙に出力せずに端末上で試験を受け、端末からデータで提出すると自動採点されます。</p> <p>つまり、ものすごいエネルギーが節約をされ、指導に活かすことができるという形になっております。</p> <p>このような仕組みが北海道だけではなく、文部科学省でも、作成しております、これをメクビットと呼んでおります。これは江別市でもいち早くどの学校も使える状態にしており、国や全国の地方自治体が作成した過去の学力状況調査などを端末上で実施することができ、それが自動採点されるというような仕組みになっています。</p> <p>しかし、まだちょっと記述式のものには自動採点に対応していないとか、分数を機械が読み取れないなど、まだ100%自動採点に対応していないのですが、C B Tを家庭での学習に生かしていける内容として、端末の活用についても進んできている状況にあり、各学校がしっかり対応しながら進めてまいりたいと考えているところでございます。</p> <p>ちょっと長くなりましたが、補足は以上であります。</p>
三好市長	<p>ただいまの黒川教育長から、小中一貫教育とICT教育に関する現状説明ございましたけれどもご質問等ございませんでしょうか。</p> <p>なければ、私から質問よろしいですか。</p> <p>先ほどの小中一貫教育の補足説明で、グループを作ったことでしたが、これは別な何校かの小学校同士が一つの中学校に通うという子供たちのグループをつくって、その中学校で体験学習するというものでよろしいですか。</p>
黒川教育長	<p>はい、江別市は二つの小学校から一つの中学校に行くところと、三つの小学校が一つの中学校に行く所があります。中学校体験で集まったときに、小学校別にやると、小学校ごとばらばらに進んでしまうのですが、例えば三つの小学校から集まった子供たちを混ぜたグループを作ります。</p> <p>つまり、来年はみんな同じ中学校の仲間だよってということで、最初は表情の硬かった子供たちがあつという間に打ち解けていく中で仲良くなり、その後、中学校の先生による体験授業ということで、例えば中学校理科の先生だったり、数学の先生だったり小学生に向けた授業を行っております。参加した小学生からは、とても面白く早く中学校行きたいなどの感想がたくさん出て聞いております。</p>
三好市長	<p>このような取組は初めてですか。</p>
黒川教育長	<p>先ほどの説明のような取組は、これまでに江別ではやったことがございません。</p>
三好市長	<p>わかりました。</p> <p>G I G Aスクールに関連しては、子供たちへの取組はもちろんですが、先生方の時間の有効利用につなげていただきたいと考えております。こう言いますのは、これまでの様々な計算をしたり、平均点を出したり教員業務が多忙だと思います。しかしG I G Aスクールで配備された端末等を活用することで、自動で採点や集計することやほかの学校との比較もできるような形になりますと、学校の先生方の時間は、かなり縮小されるのではないかと思います。これからぜひ、子供たちの学びの場での問題もあるかもしれませんが、</p>

<p>清水教育支援 課長</p>	<p>先生方の働き方改革の大きな要素の一つになるのではないかと期待をしております。 そのほかいかがでしょうか。 よろしいでしょうか。(了)</p> <p>G I G Aスクールについては、今後も教育行政の大きな柱となりますので、引き続き、教育委員会と市とで連携しながら進めてまいりたいと考えております。</p> <p>なお、小中一貫教育につきましては先ほど、事務局のほうからもお話がございましたけれども、今年度2回目の総合教育会議の中で議題として、取り上げる予定で考えておりますので、その時点までに、新たな課題ですとか取組状況などを調べて報告していただきたいと思っております。</p> <p>以上で本件につきましては終結とさせていただきます。 次に、(2) いじめ・不登校についてを議題といたします。 資料がお手元にあるかと思っておりますので、事務局から説明をお願いいたします。</p> <p>それでは、いじめ・不登校についてご説明いたします。資料3をご覧ください。 江別市におけるいじめ認知件数等についてであります。はじめに1のいじめの定義について、いじめ防止対策推進法で規定されている内容を簡単にご説明いたします。いじめとは、学校内外を問わず、ほかの児童生徒からの心理的又は物理的な行為によって、対象児童生徒が心身の苦痛を感じているものであります。</p> <p>次に2のいじめの認知学校数及び認知件数につきましては、資料記載のとおり、令和3年度は令和2年度と比較し、学校数、件数いずれも減少しております。小中学校の内訳では、小学校が全体の8割以上を占めております。</p> <p>3のいじめの態様につきましては、区分の最上段「悪口、脅し、冷やかし」が最も多く、上から3段目「軽くぶつかる、叩く」、上から2段目「仲間外し・無視」が続きます。</p> <p>次に、4の江別市、全道、全国の平成28年度以降のいじめの認知件数についてです。いじめの認知件数の増加は全国的な傾向となっております。</p> <p>次に、資料右側、5のハイパーQ Uについてご説明いたします。ハイパーQ Uは、より良い学校生活と友達づくりのために考案されたアンケートで、全国的に多くの学校で導入されており、江別市では、中学1年生に対するアンケートの実施費用を予算化しているところであります。この調査結果は、各学校でより良い学級集団づくりに役立てられており、教員からは、いじめや不登校などの可能性のある生徒を的確に把握することができるため、学校内で情報を共有し対象生徒に対し、教員からの声かけの回数を増やしたり、個別面談を実施するなど、早期に具体的な支援を行うことができると評価されております。</p> <p>次に、資料4をご覧ください。江別市における不登校支援についてご説明いたします。</p> <p>1の市内小中学校における不登校児童生徒数の推移につきましては、平成29年度から平成30年度にかけて1.4倍と急増しました。その後も増加が続き、令和2年度には200人を超え、令和3年度は258人となりました。これは、市内の全児童生徒の約3%にあたり、クラスに1人は不登校の児童生徒がいる割合となっております。同様の傾向が続きますと、今年度末には320人以上となる可能性があります。</p> <p>次に、2の不登校児童生徒に対する段階に応じた支援イメージであります。まず、①家から出ることができないなど、社会との接点がない状況から、②適応指導教室への通級はできるものの登校はできない状況、③校内の別室に入ることができるものの教室には入れない状況まで、児童生徒の状況に応じた支援内容のイメージを記載しております。</p> <p>そこで、ただ今ご説明いたしました②の状況にある児童生徒への支援にあたり、資料右側の3の江別市適応指導教室すぽっとケアの在籍者数の推移についてであります。不登校児童生徒の増加と比例し、平成30年度以降、60から70人台で推移しております。</p> <p>次に、4の適応指導教室すぽっとケア実施状況につきましては、現在、月曜日から木曜日の午前10時から12時までの2時間、青年センターと情報図書館で実施しており、前半は自学自習、後半は交流活動を行っております。</p> <p>次に、先ほどの③の状況にある児童生徒への支援にあたり、5の不登校児童生徒在籍校及び不登校支援室設置校についてであります。令和3年度末時点の不登校児童生徒在籍校につきましては、小学校は17校中15校、中学校は8校すべてとなっております。</p> <p>また、不登校支援室設置校につきましては、令和4年4月時点で、小学校17校中7校、</p>
----------------------	--

	<p>中学校は8校中5校となっており、各校が養護教諭や管理職、主幹教諭など、支援室開設時間に授業が入っていない教員で人員をやり繰りしながら、児童生徒の支援を行っているところですが、説明は以上です。</p>
三好市長	<p>ただいま、事務局からいじめ・不登校についての説明がございましたけれども、委員の皆様から何かご質問、ご意見又は感想などありましたらお話しいただきたいと思いますがいかがでしょうか。</p>
支部委員	<p>いじめにつきまして、私の考え方と意見を述べさせていただきたいと思いますが、始めに資料について数点、確認させてください。</p> <p>資料3の左側中段の2のいじめの認知件数と3のいじめの態様の件数が一致しないのは、3のいじめの態様で重複の回答があったためという認識でよろしいでしょうか。</p>
清水教育支援課長	<p>ただいま、支部委員がお話しいただいたように、2のいじめの認知件数としては、令和3年度は487件認知しておりますが、3のいじめの態様については、複数回答を含むということですので、602件となっております。</p>
支部委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>2点目に資料3の左側下段にあります4の平成28年度以降のいじめ認知件数が江別市の場合、平成28、29年が70件以下だったのが平成30年は436件、令和元年は636件、令和2年は649件と飛躍的に増えているのは、いじめの態様の区分が増えたからでしょうか。</p>
清水教育支援課長	<p>いじめの認知件数の増加の要因についてですが、平成29年3月に文部科学省がいじめの防止等のための基本的な方針というものを改定しております。その中で、いじめの定義の解釈を明確にしたこと、いじめを初期段階のものを含めて積極的に認知をすること、その認知がいじめ解消への取組のスタートラインに立っているということで極めて肯定的に評価すると明言をしております。それまでは、いじめとして認知していなかったような小さなものも積極的に件数としてカウントするようになったことからいじめが増えたというよりも、学校の認知への意識が変わったと捉えております。</p>
支部委員	<p>件数が増えた理由について確認いたしました。</p> <p>同じく資料3の左側下段のグラフについて令和2年までしか記載がないのは、全道と全国の認知件数が集計されていないということでしょうか。</p>
清水教育支援課長	<p>全道と全国の認知件数等の状況につきまして、文部科学省が児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果というのを例年10月くらいに発表いたします。ですので、全道と全国の令和3年度の状況は、あと3カ月後くらいに公表されます。</p>
支部委員	<p>回答ありがとうございます。資料から江別市のいじめの認知件数は、令和元年で636件、令和2年で649件、令和3年487件ということで、令和3年では減っていますが、この減った理由というものが分かれば教えていただきたいと思います。</p>
清水教育支援課長	<p>明確にこれだというのはなかなか難しいのですが、一つの要因といたしまして新型コロナウイルスの影響で子供たちが一斉に活動することが制限されたり、一定の距離を保つといったような生活様式が定着しつつある中で、子供同士の物理的な距離が以前と比べると保たれていることから、いじめやトラブルの発生が抑えられたのではと考えております。</p>
支部委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>それと先ほどの話で、全道と全国については、例年10月くらいに調査結果が出るということですが、令和4年度の江別市におけるいじめの態様について第一四半期ではないです</p>

	<p>が、速報的な数値等は分かりますか。</p>
清水教育支援課長	<p>江別市における令和4年度のいじめの態様の件数につきましては、来年度の6月から7月にかけて集計を行いますので、現状、数字として持ち合わせておりません。</p>
支部委員	<p>分かりました。今年度の傾向も分かればと思って質問させていただきました。それと資料の右側にあるハイパーQ Uについてももう少し詳しく教えていただけますか。</p>
清水教育支援課長	<p>ハイパーQ Uのアンケートですが、資料3の下段の表をご覧いただきたいと思います。アンケートの回答によって子供たち一人ひとりがどのような位置に分布しているかが分かり、クラス全体の様子や個人の状態についても分かる表になっております。表の左下の点線で囲われた学級生活不満足群と更にその中の実線で囲われた要支援群に表示されている子供たちというのが、いじめの被害ですとか、悪ふざけを受けているなど非常に不安傾向が強い状態の子供たちが一目で分かるということで、現場の先生方からも非常に高い評価を受けているアンケート調査でございます。クラスの子供たちが、表の右上にあります学校生活満足群へ近づくことでクラスがまとまって、落ち着いている集団だということが分かります。先生方からは、子供たちを右上の学校生活満足群に近づけるため、どのように子供たちへ働きかけていくかを考えるための一つの指標となっていると聞いております。</p>
支部委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>ハイパーQ Uは、いじめの早期発見にも活用できるとのことで、大変素晴らしい調査ができるものだ、説明いただき確認いたしました。このハイパーQ Uを年々続けていってデータを積み重ねることで、児童生徒の動向が顕著に分かるものかと思っております。江別市では、中学1年生で実施しているということですが、これを例えば、小学校の高学年あたりで実施するなど、ほかの学年でも実施いただくことで、よりきめの細かい児童生徒の動向が確認できると思っております。実施には、費用がかかるものではございますが、ほかの学年でも活用していただければと考えます。</p> <p>私からは以上です。</p>
三好市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ハイパーQ Uに関連して、おそらく同じような仕組みで行われている独自の調査があると聞いておりますので、その辺を含めまして全体で検討していく必要があると考えます。</p> <p>そのほかございますか。</p>
須田委員	<p>私からは、不登校について感想等を述べたいと思っております。</p> <p>江別市の不登校児童生徒も、資料4の表を見ると年々増えています。全国的にも増加傾向で令和2年度の調査によると19万人を超えて過去最多だったという記事を拝見いたしました。</p> <p>その記事の中で、不登校の一番の原因は本人の不安と無気力で、次に多いのは、いじめ以外の人間関係、家庭の状況、そのほかには先生との関係やいじめなどもあるとのことですが、私が実施しておりますバドミントン教室でも、不登校の子供たちがいます。しかしバドミントンだけは、やりたいという子供がいて、バドミントン教室では、すごく積極的にほかのお友達とも会話をしますし、対外試合に出たいという子供もいます。バドミントン教室で活動しているその子供の様子を見てみると、どうして学校にいけないのかなと感じているところ です。</p> <p>つい最近のことですが、低学年の子供が元気ないなと思って見ていたら、その子供のお母さんから、子供が最近学校に行くことができていないとの話がありました。お母さんから原因を聞いてみると友達関係や先生からの言葉で学校に行けなくなりましたとのことでした。無理に学校へ行かせようとすると腹痛や頭痛、視力障害が起こると本人は言いますが、バドミントンだけはやりたいと言い、バドミントン教室に来ているので、親である私からすると救いですと話をしてくれました。そのような様子を見聞きしていると、ただ不安や無気力だけではなく色々な人間関係でも子供たちが不安になることなど、不登校の原</p>

	<p>因に色々な要素が混ざって複雑になっていて、これが原因だということが断定できないのかなと思います。</p> <p>先日、すぽっとケアを視察いたしました。その時に行われていた授業は英語でしたが、来ている子供たちは楽しそうにしておりました。資料に表もありますが、現状のすぽっとケアの施設や人員体制では、75人以上の受け入れは困難とのことですが、不登校児童生徒はどんどん増えております。そのような背景から今の施設や人員体制で対応できるのかという不安はあり、対象の子供たちに合った専用の施設ですとか、人員の確保が必要なのではと考えます。</p> <p>また、すぽっとケアは週4回の午前中の2時間しか実施できてないと聞いております。子供たちの中には、きっと午前中に活動できなくて、午後になって活動するような子供もいると思います。先ほどにも重なりますが、専用の施設ができれば毎日、週5日で午前も午後も実施しやすくなるのかなと思います。</p> <p>そして、資料右下には不登校支援室について書かれておりますが、ほとんどの学校で不登校児童生徒が在籍している現状から言いますと、不登校支援室は、各学校に設置できることが望ましいと思われれます。その中でも不登校児童生徒の数を考えると特に中学校は必要と考えます。</p> <p>今は、不登校の原因が分からないことが多いと思います。無理に学校にいかなくてもいいという考えもあります。学校に登校することだけが、結果ではないと言われていますが、子供たちが将来、どのような進路へ進み社会で自立していけるか、そこが一番大事だと思いますので、日々の生活や社会に関心を持てるような指導ができる環境が整えられたらと考えます。</p> <p>私の一番の要望は、すぽっとケアの専用の施設や人員の確保を検討いただければと思いますのでよろしく願いいたします。</p>
三好市長	<p>ありがとうございました。そのほかございますか。</p>
林委員	<p>先ほど、支部委員がお話ししたと重なりますが、いじめの認知件数についてですが、平成29年度から平成30年度にかけて認知の定義の解釈が明確になったことから非常に認知件数が増えているように見えておりますが、むしろ増えているのは、正確に把握ができていてということで文部科学省でも肯定的に捉えていると聞きます。資料には、江別市の令和元年から令和3年まで認知件数がでておりますが、こちらの発生件数について増えた減ったという評価よりも、しっかり把握できているかの検証の必要性やどうしてもいじめの認知件数自体が多く見えてしまうので、保護者への丁寧な説明も必要と感じます。</p> <p>それともう一点、重大事態の推移についてもいじめの件数と併せて今後、議論が必要かと考えます。</p>
三好市長	<p>ありがとうございました。今ほど話にありました重大事態について案件はありますか。</p>
清水教育支援課長	<p>いじめの認知件数全体は、令和3年度ですと487件ですが、令和3年度までのところで江別市は、いじめの重大事態は発生しておりません。</p>
黒川教育長	<p>若干、補足をさせていただきますと、重大事態とは、いじめにより、報道にあったような中学生が亡くなった件など命に係わるようなものが一つで、もう一つは、いじめにより児童生徒が、一定期間の期間、学校に来られない状況が続いている場合で、この一定程度というのは概ね30日以上と定められており、この二つがいじめの重大事態と言われるのですが、資料3の3の表にあるようないじめの態様の中でも、大人であれば犯罪であり、逮捕されると言われるような内容もあることから、ちょっと冷やかしたというものと、金銭を要求するのでは、程度に差があるのかなと思います。事案として重いものをしっかり把握することと解決の状況もセットで報告していくことが望ましいと考えます。</p> <p>令和3年度末にはいじめの未解決が3件ございましたが、いじめが発生したのが、年度末の1月、2月でその後、3か月は経過を見ることから、子供同士が仲直りしても、未解決として報告しなければならぬ内容も含まれます。</p> <p>以上です。</p>

<p>三好市長</p>	<p>ありがとうございます。そのほかございますか。 よろしいでしょうか。(了)</p> <p>やはり、表面上の問題だけではなく、内面にかなり深く入るような問題もありますから、認知する数だけでは、全体の把握はできません。特に、今の金銭要求や暴力を振るうとなりますと、悪口や冷やかしとは次元が違う話だと思いますので、その意味からも濃淡をつけて、しっかりと対応していただきたいと思います。</p> <p>また、須田委員からもお話しがありましたが、これだけ不登校が増えてくると、そこに市独自でメスを入れていかなければならないと考えます。どのような対応ができるか、先ほどのハイパーＱＵの問題ですとか総合的に考慮していかなければならないと思います。</p> <p>何を最初に行い、どのように導いていくのか今後、解決のステップを想定しながら、施策を進めていく必要があると思いますので、それはまた予算を含めた中で検討させていただきたいと思います。</p> <p>以上で本件を終結いたします。</p> <p>次に(3)のセラミックアートセンターのこれまでの総括と今後の利活用についてを議題といたします。</p> <p>こちらにも机上に資料が配られておりますので、事務局から説明をお願いいたします。</p>
<p>兼平郷土資料館参事</p>	<p>セラミックアートセンターのこれまでの総括と今後の利活用について、ご説明いたします。セラミックアートセンターは令和6年度に開館30周年を迎えることとなっております。このことを踏まえまして、開館以降の施設運営の総括と今後の利活用について整理したところです。</p> <p>では、資料5をご覧ください。</p> <p>はじめに、開館以降の主なできごとについてご説明いたします。セラミックアートセンターは、平成6年11月の開館以降、毎年度企画展を開催しており、中でも、平成18年開催の華麗なるマイセン展は、セラミックアートセンター企画展最多の8,146人の観覧者数となっております。平成20年8月には、食と音楽の祭典F'sフェスタ2008を開催し、8,000人の来場を得ております。この催事では駐車場に特設ステージを設けたほか、前庭、中庭も会場としたことで、施設活用の可能性を示したところです。</p> <p>平成24年1月には、企画展示室改装工事が完了し、この改装以降、市内絵画サークルや大学等による展覧会のほか、作家の個展等、貸ギャラリー利用が定例化いたしました。</p> <p>なお、改装前の利用者数は、16年間で425人でしたが、改装以降の10年間では28,281人となっております。</p> <p>以上が、開館以降の主なできごとで、この間の利用者数は記載のとおり、総数602,471人となっております。</p> <p>次に、総括についてご説明いたします。開館以降、今年度までを三期に区分しております。</p> <p>まず、第一期として、開館からの10年間であります。道内唯一の陶芸専門施設として、北海道の陶芸作品、れんが資料を常設展示していることと、近隣市町村では最も充実した工房設備を有することから、利用者数は好調に推移しました。企画展示では、道外有名私立美術館や新聞社等とのタイアップにより、市内では得られない鑑賞機会を提供いたしました。また、普及事業では観光的体験事業と教育的講座の両立を模索、実施し、施設運営方針である、陶芸文化の普及振興、陶芸愛好家の底辺拡大に努めたところです。</p> <p>第二期は、平成16年度からの10年間です。この時期は、開館の目新しさに陰りが見えたこと、展示・普及事業とも市民への訴求性に欠けたことなどから最初の5年間は低迷いたしました。このことを反省材料として、エントランスホールや中庭、駐車場などを活用した多角的なイベントを開催したことや、企画展示室の改装効果により、利用者数はゆるやかな回復に転じました。</p> <p>第三期は、現状です。展示事業にのみ頼るのではなく、施設環境の特性を活かしたイベント開催のほか、社会教育的施設として、芸術文化の創造と発信機会の提供や生涯学習活動を通じた交流など、市民の文化活動を下支えする事業展開を図っております。</p> <p>最後に、今後の利活用についてです。withコロナと文化観光の振興を念頭に、記載の三項目に取り組んでまいります。まずは来年度、野幌総合運動公園で開催されるインターハイの運営協力を通じ、施設の利活用向上に努めてまいります。</p>

三好市長	<p>以上です。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>例えば来年度はインターハイということでございまして、市の方も、私は実行委員会の会長でございますけれども、多くの方に、江別を知ってもらう最大のチャンスだと思っております。</p> <p>インターハイを担当する参事が教育委員会にいまして、本日この会議に来ておりますが、補足等ありますか。</p>
稲垣スポーツ課参事	はい。よろしいでしょうか。
三好市長	では、説明お願いいたします。
稲垣スポーツ課参事	<p>令和5年度の高校総体、通称インターハイについて、補足で情報提供させていただきます。</p> <p>資料6をご覧ください。</p> <p>令和5年7月から8月にかけて、北海道で昭和62年以来、36年ぶりとなるインターハイが開催されます。北海道では、19の市と町で28競技32種目が開催されますが、このうち江別市では、ホッケーと水泳の飛込・競泳が開催される予定です。各競技の日程や会場は、表に記載のとおりで、参加予想人数は、過去の実績から選手や監督・コーチ、観客あわせて約2万4千人と見込んでおります。</p> <p>しかし、水泳の飛込については、設備の都合上、野幌総合運動公園での開催が難しい状況であり、施設を所有管理する北海道では、他県での開催も並行して検討していると教育委員の皆様にお知らせしていたところですが、現在、北海道において最終的な判断をしているところです。</p> <p>いずれにしましても、江別市としては、たくさんの方が市を訪れることになりまして、また、競泳ではNHKでテレビ放映もされますので、江別をPRする絶好の機会となります。このため、今後効果的なPR方法について検討していきたいと考えています。</p> <p>なお、屋内プールの観客席は数に限りがあり、全ての観客が入場するのは難しいことが予想されますので、こちらのセラミックアートセンターにライブ配信用のモニターを設置することも検討していきたいと考えています。</p> <p>説明は、以上です。</p>
三好市長	<p>ただいま、セラミックアートセンターのこれまでの総括と今後の利活用について、令和5年ですけれども、全国高等学校総合体育大会、通称インターハイが北海道江別市で開催されることについて説明がございました。</p> <p>今回、セラミックアートセンターを会場に、この総合教育会議を開催しております。</p> <p>せっかくの機会でありまして、館内視察をした上で、先ほど最初に説明がありました。今後の利活用についてインターハイでの活用も踏まえまして、協議をいただければと思っております。</p> <p>皆様には、何がしかアイデアをお話していただければと思います。</p> <p>それではまず、換気等も踏まえまして5分ほど休憩を取った後に、館内の視察をさせていただきます。その後、もう一度ここに皆様お集まりいただいて意見交換をさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>【休憩】</p>
三好市長	<p>それでは、再開いたします。</p> <p>施設見学について事務局からお願いいたします。</p>
佐藤教育部次長	皆様、担当参事の後について施設見学を行います。

三好市長	<p>【施設見学】</p> <p>皆様、お揃いの方ですので会議を再開いたします。 施設見学お疲れ様でした。 セラミックアートセンターのこれまでの総括と今後の利活用についてということで、先ほど事務局から報告と施設見学をしていただきましたが、委員の皆様から施設見学を踏まえまして何かご意見、ご質問等はございませんでしょうか。</p>
林教育委員	<p>施設を見させていただきありがとうございました。 私も何回かセラミックアートセンターに来たことがありますが、今回のように案内をいただきながら見学したのは初めてだったものですから、新しく知ったこともたくさんありました。ありがとうございます。 セラミックアートセンターの利活用ということですが、資料に開館以降の利用者数も記載されていますが、こちらの施設の設立の歴史からいってもたくさんの方に観覧、来場いただいていると思います。それでも更なる利用者の拡大については、考え続けていかなければならないと思います。 そうなるの一つは、ここにあるやきものを展示会や企画展などで広めることを今後も積極的に行う必要があることと思います。もう一つは、今までは、やきもの文化を広める要素が多かったと思いますが、それに加えて江別市を知ってもらうことを考えると観光的な要素も必要ではないかと思えます。先ほど、施設見学の際に見せていただきました陶芸教室は、非常にいいと思えます。現在は近場の方が活用するような仕組みになっていると思いますが、観光で江別に来られた方が利用できるようにできないかなと思えます。例えば、観光協会とタイアップしてみるとか、北海道は、10月11月の職場で旅行をする観楓会文化がありますので、その一つとして旅行のついでにやきものを焼いて、数日後に作品として自宅に郵送されるような取組もできそうかと思えます。今は、セラミックアートセンターにて粘土の販売もしていないとのことで、すぐには実行できないかもしれませんが、そのような取組を考えてみてはと思いました。 それと今回会場になっている研修室というのは、会議等で一定の需要が江別市内にあると思えますので、広く認知をしていただき活用いただければと思えます。最近、若者の中で、施設と一緒に映した写真をInstagramに掲載することが流行っております。聞いたところでは、レンガ工場のような場所も撮影スポットになっているという話でございましたので、この建物もそのような場所になるような仕掛けをしてみるのも一つだと思えます。 また、以前にも同じような活用をされたようですが、パーティーやコンサート等の利用も当然いいと思えますし、江別市の迎賓館的な活用方法もあるかと思えます。 そのほかには、先ほどいじめ・不登校の話の中で、すぽっとケアの施設の問題でもありましたが、例えばこの施設もすぽっとケアの会場として検討してみることもできるのかなと思いました。現状のすぽっとケアの会場は午前中だけだったり、日によって場所が変わったりしていますので、一定の場所を常設で提供することは、会場設営や準備も楽になると思えます。 以上です。</p>
三好市長	<p>そのほかございませんか。</p>
麓教育委員	<p>本日は、普段見ることができない場所まで、見学させていただきありがとうございました。 私が勤めているこども園でも、土に触れる機会があります。陶芸が一番年長の6歳児の子供たちが毎年行っていますので、興味深く見学させていただきました。 施設の利活用ということで建物も中庭もとても美しく、そこを活用する方法がないかなと考えておりました。事前に資料でコンサートでの利用も見えていましたので、いかにこの場所に人を集めたり、知っていただく観点から、例えば、市内中学生の吹奏楽部を集めて演奏会を開催することができたら良いと思いました。 今までは、お祭りの場などで演奏していた子供たちは、昨今の新型コロナウイルスの影響</p>

	<p>響もあって演奏する機会がないと聞いております。学校内で児童生徒に聞いてもらえる機会はあっても一般の方に自分たちの音楽を聞いてもらう体験をしないまま、卒業を迎える児童生徒もいると聞いております。</p> <p>外での演奏会は、雨天時には楽器が濡れてしまうので、この場所での開催は難しいかとも考えましたが、実際に施設を見学させていただき、ホールでも演奏ができるという話を聞きましたので、天候に左右されることなく実施できるのではと思いました。</p> <p>セラミックアートセンターのような素敵な場所で子供たちが集まって、演奏する機会があれば当然、保護者も来館しますし、その音楽を聞きに来る一般の人も集まってくると思います。このようなイベントが軸となり、継続することで施設の宣伝にもなると思いました。</p>
三好市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいま林委員や麓委員からご意見ございましたが、そのほかいかがでしょうか。</p>
兼平郷土資料館参事	<p>林委員から何点かいただいたご意見についてですが、まず、やきものをもっと広めていくことで、セラミックアートセンターの展示の一つの核であります、江別ゆかりの小森忍というやきもの研究家の記念室を常設しております。小森忍の全国巡回展を過去2度ほど行った結果、小森忍や江別というワードが全国に広まって、江別に行けば小森忍の作品が見られるというような声もいただいております。</p> <p>そのほかには、江別市内で活動されていて、現在ロビーで展示しております陶芸家たちがどんどん全国区になって江別イコールやきものということが広まっております。私どもとしてもそれらを捉えて一緒にやきもの文化を広めていければと考えております。</p> <p>それから観光的な要素を含めた事業とのことですが、昨年度末には数回、旅行会社が北海道食材にこだわっているビュッフェダイニングとのタイアップしたセラミックアートセンターへのツアーを組んでいただきました。そのような旅行会社とのつながりを今後も継続していきたいと考えますし、そのツアーに陶芸体験を組み入れられれば、観覧、陶芸体験、グルメと体験者が喜ぶような仕掛けもできるのかと考えます。</p> <p>また、数年前に北海道の公益社団法人が実施するタクシードライバーガイドの講習をこの研修室で行いました。その際にタクシードライバーの方が乗車したお客様にセラミックアートセンターを紹介するシナリオで学習しておりました。そのような活動を通して少しずつではありますが、観光的なセラミックアートセンターの一面も周知されていると考えます。</p> <p>次に研修室の利活用についてであります。開館当初は、実施していた企画展に関連した講演会での利用に限られていたところがありました。しかし近年は、周辺企業等の研修会や学習会にも利用いただいておりますし、コンサート実施時には、その控室での利用や児童作品展の書写の会場として利用いただいております。単に研修室のカテゴリーを超えた利用も図られていきますし、一度利用いただいた方々には、この施設を積極的にPRして継続的な利用をお願いしております。</p> <p>適応指導教室すぽっとケアの利用に関しては、令和3年12月に座学と観覧と陶芸体験で一日すぽっとケアの会場として利用いただいております。体験した子供たちに感想を聞くと非常に喜んでくれました。今後の継続的な利用につきましては、教育支援課や教育部内での協議が必要となりますが、セラミックアートセンターとしては、そのような利用につきましては歓迎いたします。</p> <p>麓委員からのいただいた中学校の吹奏楽のお話しですが、セラミックアートセンターでは、小学生を対象とした絵画や書写を展示した児童作品展を行っております。また、市内の中学校高校に在籍しております美術部の合同展示会も行っております。いずれも実行委員会がありまして、児童作品展は、本州の私立美術館が主催となり、江別市展では市民有志の方々が実行委員並びに事務局を担っており、美術部の合同展示会については、北翔大学で事務局をしております。</p> <p>全市的な流れの中で実行委員会が形成された上で、先ほどお話しがあった中学校の吹奏楽部の演奏会が開くことができれば、保護者だけでなく、祖父や祖母、友人等も見にくることで来館者が増えますし、子供たちの芸術や音楽活動の情操を養うことにつながりますので、検討したいと思っております。</p>

<p>三好市長</p>	<p>以上です。</p> <p>ただいま事務局の方からもご意見等に対して補足的な説明がありました。そのほかいかがでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。(了)</p> <p>基本的には、この建物の維持をどのようにしていくかになると思います。</p> <p>利用者を増やすことだけでは、採算が合うのは難しいとは思いますが、この施設を有効に利用して活用することによって、存在価値が出ると思います。今のままの利用ニーズからすると存在価値が足りないと思います。</p> <p>以前、佐賀に視察へ訪問した時には、唐津焼や伊万里焼などありましたが、そのほかにも陶芸に関連したお土産がありました。しかし江別にきて陶芸体験をして自分で作成したものを持ち帰ることもあるかもしれませんが、食事をしたり、野幌総合運動公園に来てスポーツ競技に出場したりして、お土産を買おうとした際に、れんがややきもののみならずお土産が手軽に買えないということが現状であります。</p> <p>もう一つは常設展示を一度、見に来た方がリピーターとして来場する機会がほとんどなく、企画展や作品展を開催したときに、保護者や友人が来場することで裾野を広げているのが現状であります。</p> <p>今後は、どういうつながりを作って施設を活用していくのか陶芸だけの利活用は難しいと思います。先ほど林委員や麓委員からの発言にもありましたが、観光や演奏会などを活用してもうひと工夫していただき、気軽にこの施設をイベント等で利用していただけるような気持ちになるよう仕掛けが必要だと思えます。</p> <p>せっかくすばらしい財産なので有効に活用しない手はないと思いますので、皆様の意見を聞きながら進めていきたいと思えます。</p> <p>そのほか、何かございませんか。よろしいでしょうか。</p> <p>以上を持ちまして今日の議題は終結させていただきます。</p> <p>最後に次第の4 その他であります。本日、協議した以外のことで何かございましたらご発言いただきたいのですが、よろしいですか。(了)</p> <p>それでは次回の日程ですが、緊急で協議を要する事案がない限り、10月から11月頃の開催を予定しておりますので、事務局を通じてご連絡をさせていただきたいと思えますので、よろしく願いいたします。</p> <p>以上をもちまして、本日の江別市総合教育会議を閉会いたします。</p> <p>今日は、いつもの会場を変えての総合教育会議でございましたが、皆様からの活発なご意見をいただきましてありがとうございます。お疲れ様でした。</p>
-------------	--